

- 1 日時 令和7年11月〇日(〇) 第〇校時
- 2 学年 第6学年〇組
- 3 単元名 「未来へつなぐヒロシマのバトン」【平和でヒロシマとつながる】
- 4 単元について

目標

原子爆弾によって広島に起きた被害や復興の様子を調査したり発信したりする活動を通して、ヒロシマの願いを受け継いできた多くの人の努力や思いを理解し、これからのヒロシマの在り方や平和を築くために自分にできることを考え実行するとともに、これからも自らの生き方や行動に生かすことができるようにする。

目指す子供の姿

- 平和は、多くの人の努力によって受け継がれてきたものであり、自分の思いや考えを深め、それを実行していくことが平和の実現につながることを理解している。
- ヒロシマの思いや願いを受け止め、平和を受け継ぐために必要な情報を収集し、課題を解決する方法を考え、伝えたい内容や相手に応じて、表現方法を工夫して効果的に伝えている。
- 自分自身がヒロシマの継承者の一人として自覚をもち、平和への思いをこれからも受け継いでいくために自分ができることを考え、継続して取り組もうとしている。

現在の子供の姿

昨年度末に行った、旧6年生の取組の紹介や、〇〇小学校が平和の軸線上に位置すると知ったことをきっかけに、ヒロシマを未来へつないでいくために自分たちができることはないだろうかという思いを強くもち学習を始めている。

児童アンケートでは、「ヒロシマの子として自分にできることはある」と答えた児童は97%にのぼり、その多くが、平和について伝えること・発信することと回答している。「何を伝えたいか」に対しては原子爆弾の恐ろしさや原爆ドーム、8月6日に原子爆弾が投下されたことなどに関心をもっている児童が、6割以上いた。また、ヒロシマを受け継ぐことについて、「自分自身の問いがある」と答えた児童は67%だった。これらのことから、ヒロシマの子としての思いをもっているものの、ヒロシマを歴史上の出来事としてのみ捉えており、人々の努力によって平和への願いがどのように受け継がれてきたかについては、まだ十分には理解していなかったと考えられる。

4月から児童は、被爆体験の聴講や平和記念資料館の見学、平和記念公園の碑巡りをピースボランティアの方と行うことを通して、ヒロシマに対する理解を深めつつある。これらの活動を通して自分にできることを使命として考えた。平和記念公園で自分の使命を実行することで、「もっとヒロシマに関心をもってもらうためには、どうすればよいだろう」と考えたり、「もう一度、平和記念公園で来園者と話したい」と考えたりする児童が増えてきた。ヒロシマの子として自分にできることを考え、取り組むことで、平和に対する思いを少しずつ深めている。

単元の価値

〇〇学区は「平和の軸線（原爆ドーム、原爆慰霊碑、平和記念資料館を同一線上に並べた都市軸）」上に位置しており、この平和の軸線上に位置する本校だからこそできることがある。その限られた学区で暮らし、ヒロシマの地で生まれ育った子として、自分にできることを考え、実行することによって、自らも平和を語り継ぐ継承者の一人であることに気付くことができる単元である。

戦後80年という長い年月が経ち、今を生きる子供たちにとって、被爆の実相は遠い過去の出来事となりつつあり、身近なものではなくなっている。今もなお、大切に残されているものや現在まで語り継がれていることに関わる中で、被爆した人の思いや、次の世代へ伝承・継承している人々の思いに触れることを通して、自分自身の平和への思いを深めていく。さらに、平和記念公園を表現の場として設定し、様々な人と出会い、平和に対する多様な考えに触れることで、目的をもって「誰に、どのように伝えるのか」を考える実践的な学びに取り組むことができる。話す相手の反応と向き合いながら探究活動を進めていくことによって、問いを練り直したり表現方法を改善したりすることができ、その過程で、自分自身の平和に対する考え方や生き方を問い続け、深め続けることが期待できる。

働きかけ・環境設定

導入では、平和記念資料館の来館者数が過去最多となっている一方で、広島原爆の視覚的資料がユネスコの「世界の記憶」には登録されなかったことや、他県における8月6日の認知度の低さ、被爆体験伝承者の高齢化などを提示し、現代のヒロシマがもつ課題について考えた。その後、子供たちに「ヒロシマの使命」としての課題意識をもたせ、平和記念資料館と平和記念公園を訪れ、自分の心が動いたことを手掛かりに探究を始めた。より多くの人に出会い、多様な考えに触れることができることから平和記念公園を活動の場として設定した。

探究を進める中では、「事実を伝えるだけでよいのか」「自分たちだからこそ、できることはないのか」といった視点を問いかけながら、活動の目的を共有し、ヒロシマを継承するために自分たちにできることを深く考えていくことができるように支援する。また、自分自身の平和に対する思いを深めることができるように、ピースボランティアの方や他校の児童との交流の場を設定して、双方向で対話ができるようにする。これらの学習活動を繰り返すことで、自分自身の平和に対する思いの変容に気づき、「平和とは何か」「これからも平和のために自分にできることは何か」など、自らに問い続けながら生きていこうとする姿を育てていきたい。

つながる学び

国語科「インタビューをして、自分の考えと比べながら聞こう」の学習や「かたりの時間」を通して、相手の話を聞くだけでなく、そこに込められた思いに気付くことができるようにするとともに、思いを引き出し対話する力を育てていく。「デジタル機器と私たち」や「発見、日本文化のみりよく」では、情報を収集・整理して、分かりやすく伝える力を育成し、本単元で生かしていく。「みんなで楽しく過ごすために」では、話し合いにより合意形成を図る力を培い、平和の捉え方の多様性を尊重しながら、相手とよりよい関係を築く学びに発展させていく。社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」の学習を通して、戦争に至る背景を知り平和への思いを深めるとともに、現代を生きる自分たちにできることを考え、取り組んでいきたいという姿勢につなげたい。また、表現力を高めるために、国語科「パンフレットを作ろう」や「今、私は、ぼくは」の学習を関連付けながら学びを深めていきたい。

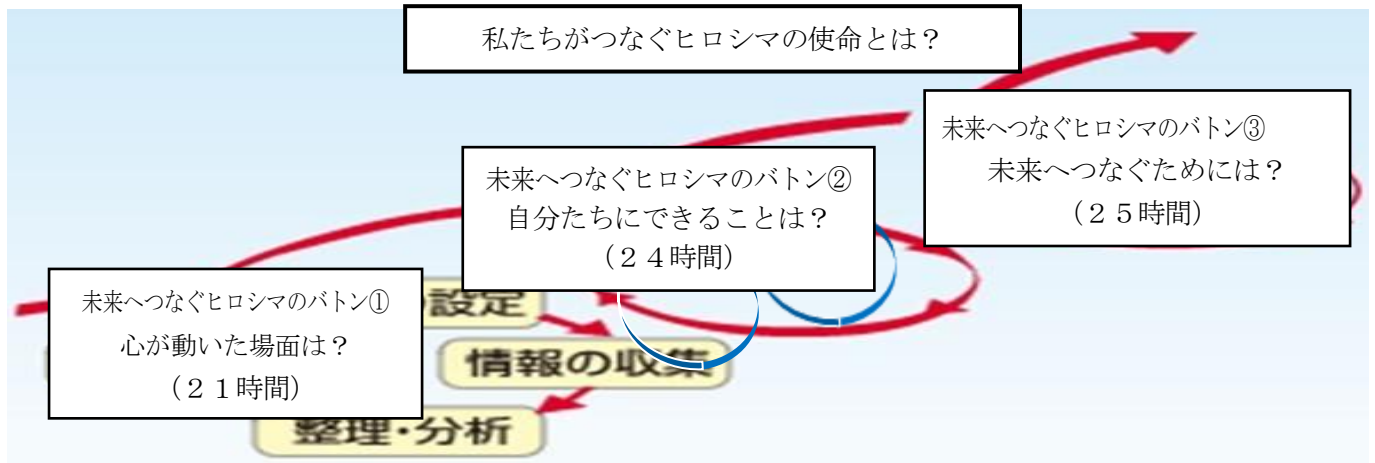
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 平和は、多くの人の努力によって受け継がれてきたものであり、自分の思いや考えを深め、それを実行していくことが平和の実現につながることを理解している。	○ ヒロシマの思いや願いを受け止め、平和を受け継ぐために必要な情報を収集し、課題を解決する方法を考え、伝えたい内容や相手に応じて、表現方法を工夫して効果的に伝えている。	○ 自分自身がヒロシマの継承者の一人として自覚をもち、平和への思いをこれからも受け継いでいくために自分ができることを考え、継続して取り組もうとしている。
① 平和は、人々が行動する努力をし続けることによって受け継がれていることを知るとともに、平和に対する思いや考えを深め、自分の言葉で語ったり行動したりすることが、未来の平和の実現につながることを理解している。	① 自分たちの考えと現実との違いから現在のヒロシマの問題点を整理して課題を設定し、どうすれば解決することができるのか見通しをもっている。	① 平和記念公園での活動を通して、自分の使命を振り返ったり、他者の考えを受け入れたりしながら、粘り強く課題を解決しようとしている。
② 被爆の実相やヒロシマの復興について、ウェブサイトから、適切なキーワードを自分で選び、必要な情報を収集している。	② ヒロシマの願いをつなぐために、自分たちにできることを考え、アンケートやインタビュー、ウェブサイトでの検索など、目的にあった方法で情報を収集している。	② ヒロシマの願いを受け継ぐために、ピースボランティアの方や友達の考えを生かし、目的を明確にししながら、協働して探究活動に取り組もうとしている。
③ 平和に対する理解の深まりは、平和の継承について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	③ 相手の心を動かすことを視点に、収集した情報を比較・分類したり、関連付けたりしながら、課題の解決に向けて考えている。	③ 自分の使命をこれまでの経験や体験とつなげて話し合うことで、これからも、ヒロシマの子として自分にできることを考え、行動しようとしている。
	④ 平和を受け継ぐために自分たちにできることを考え、伝える相手や目的に合わせて効果的な方法で表現している。	

出会う学びの財・環境（ひと・もの・こと）

- ・広島平和文化センター 平和文化振興部 部長：松浦幸雄 様
- ・広島平和文化センター 課長：西田満 様 課長補佐：日浦聡一 様
- ・ピースボランティアの皆様
- ・被爆体験伝承者 梶矢文昭 様 内藤慎吾 様
- ・広島大学 平和センター長：ファン デル ドゥース 瑠璃 様
- ・広島大学留学生の皆様
- ・広島市立舟入高校の平和探究班の皆様
- ・広島平和記念資料館所蔵品 ・被爆建物 ・平和に関する本や資料 ・被爆体験証言 ・カープ誕生物語
- ・市民公開講座

6 指導と評価の計画（全70時間）

探究の過程の構想




	小単元1 心が動いた場面は？	小単元2 自分たちにできることは？	小単元3 未来へつなぐためには？
課題の設定	現在の平和記念資料館の様子や新聞の記事から「現代のヒロシマ」について考える。(思①) (2 h)	平和記念公園での自分の活動を振り返り、問いについて再度考え、自分のテーマを見直し、自分たちだからこそできることを考える。(主①) (4 h)	自分たちの活動で平和に対する意識が高まったのだろうかという問いのもと、活動を振り返り、未来へつなげるために自分たちにできることを考える。(主③) (2 / 4 h)
情報の収集	平和記念資料館の見学やピースボランティアの方によるガイド、被爆体験の聴講を通して心が動いた場面を選び共有する。(知②) (6 h)	相手にどうなってほしいのか目的意識を確認しながら自分たちにどんなことができるか考え、これからの見通しをもつ。(思②) (4 h)	課題に沿って、自分たちの活動をどのように改善したらよいか考える。(思②) (4 h)
整理・分析	自分なりの問いを探り、今後深めたい自分のテーマを決め、どのように取り組めばよいか考える。(主②) (8 h)	相手の気持ちに訴えるためのポイントを整理しながら課題解決に向けた活動の詳しい内容や方法を考え、活動の準備をする。(思③) (1 1 h)	改善点を踏まえて活動の準備をする。市民公開講座でどのように伝えていけばよいか考える。(主②) (1 0 h)
まとめ・表現	ピースボランティアの方と平和記念公園で自分の思いを伝える活動を行い、感じたことを交流する。(思④) (5 h)	平和記念公園で2回目の活動を行い、感じたことを交流する。(知③) (5 h)	平和記念公園で3回目の活動や5年生との交流を行う。これまでの学習を振り返り、自分の変容や平和に対する思いや考えをまとめ伝える。(知①) (7 h)

7 本時の目標

自分の使命をこれまでの経験や体験とつなげて話し合うことで、これからも、ヒロシマの子として自分ができることを考え、行動することができる。【主体的に学習に取り組む態度③】

8 本時の学習展開

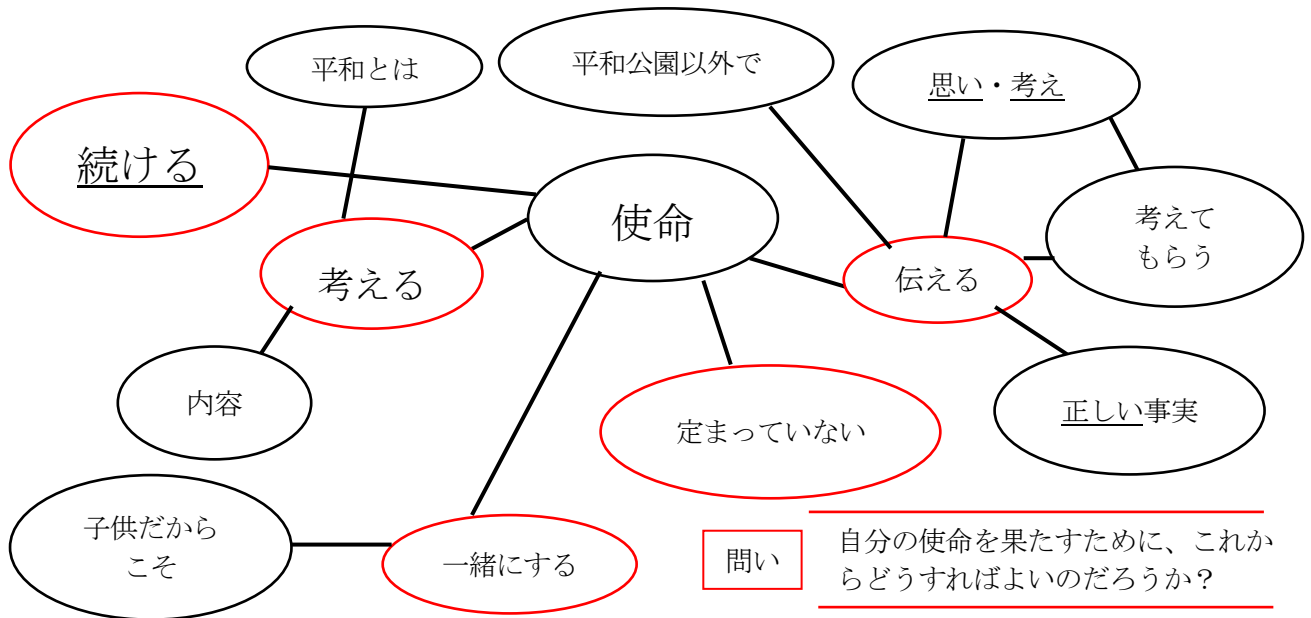
学習活動		働きかけ（目指す子供の姿のために）
事前	0 次時に向けての問いを立てる。 自分の使命とは？ ～これまでの活動を踏まえて～	○ 授業終わりに子供の言葉を用いて次時の問いを立てる。 本時の見どころ ★事前学習による問いに対する自分なりの考えの確認。
	1 本時の問いを確認する。 2回目の活動をやってみて、心を動かすことを目標としていたけど、アンケートからどうだったのかということがはっきりとは分らなかったです。だから2回目の活動を終えて、使命について考えてみるべきだと思いました。 自分の使命とは？ ～これまでの活動を踏まえて～	○ 4月と7月の使命を事前を書いておくことで、自分の考えを深め、使命を見つめ直すことができるようにする。
本時	2 現在の考える使命について活動グループで話し合う。 使命は伝えることだと思います。理由は、2回目の活動でしおりを渡したとき、そのしおりのイラストの説明をして・・・。	○ ノートをもとにこれまでの自分の考えを見つめ直すことができるようにする。 ○ 子供が、主体的に話し合いに参加できるような声掛けをしたり、思考が深まるような切り返しをしたりするために、問いに対する考えを事前に見取っておく。
	3 自分の考える使命について全体で話し合う。  使命は伝えることだと思っていたけど、2回目の活動を通して・・・。 使命は伝えることだと思います。今回は自分の思いも伝えました。今後も・・・。	本時の見どころ ★意見交流による思考の深まり。
	4 本時の学習を振り返る。 僕は、人それぞれの使命があつていいと思うし、自分の考える使命を一人一人が果たしていけばいいと思います。でも本当に大切なのは、それを続けていくことなのではないかと思いました。	
5 次時の問いを立てる。 自分の使命を果たすために、これからどうすればよいのだろうか？		
事後	6 次時までの時間を使って、自分の考えをもつ。	○ 自分の考えを具体的に書いてくるよう声掛けをする。 本時の見どころ ★次時の問いの確認。

8—1板書計画

未来へつなぐヒロシマのバトン

問い

自分の使命とは？ ～これまでの活動を踏まえて～



9 本時の評価規準と目指す子供の姿

本時の評価規準	目指す子供の姿
<p>【主体的に学習に取り組む態度③】 自分の使命をこれまでの経験や体験とつなげて話し合うことで、これからも、ヒロシマの子として自分にできることを考え、行動しようとしている。 (振り返り、発表)</p>	<p>○ 自分の使命をこれまでの経験や体験とつなげて話し合うことで、これからも、ヒロシマの子として自分にできることを考え、行動しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は何かと一緒にすることが使命だと思います。2回目の活動で、一つのテーマについて話し合ってみて、外国の方に平和について行動するきっかけになったということを書いてもらいました。子供と一緒にしたからこそ、きっかけになったのではないかと思います。 ・ 自分の使命は、伝えることだと思います。2回目の平和公園での活動で、アンケートを取りました。その返信には、教えてもらったことを身近な人にも伝えたいと書いてありました。自分が伝えたことで行動に移してくれたことが嬉しかったです。

10 本時の見どころ

- ・ これまでの経験やグループでの話し合いを基に、自分の使命について考えることを通して、平和についての思いを自分の言葉で語り合いながら深めている姿。